



【 開発にあたって 】

クルマがもたらすかけがえのない楽しさ。

私の家にN360が届いたのは、私が10歳のときでした。両親と弟。家族4人で出かけた九州一周ドライブ旅行は、いまでも鮮明に覚えています。大学生になると、アルバイトでためたお金で中古のN360を手に入れ、毎日のようにドライブを楽しんだものです。思い立てばいつでも行きたいところに行ける。大好きな仲間や恋人と同じ空間を共有できる。その楽しさはなにものにも代えがたいものでした。

近年、若者のクルマ離れが進んでいると聞きます。確かに、交通網の発達した都市部ではクルマがなくても不自由さを感じることは少ないのかもしれません。しかし、仕事に追われた週の終わりに、あるいは、よく晴れた日曜の朝に、思い立てばすぐ行きたいところに行ける豊かさを忘れて欲しくはありません。Honda Nシリーズ第三弾は、そんな思いを込めて、マイカーを持つよるこびとドライブの楽しさに満ちたクルマを目指しました。長く愛していただけるデザイン、大人4人がくつろげる室内、そして、快適な高速クルーズを約束する走行性能。それらを高次元でバランスさせることで、1.3Lクラスのスモールカーを超えるあたらしいベーシックカーを、軽自動車の規格内でつくり上げたいつもりです。自由に移動するよるこびを、クルマがもたらす楽しさを、N-ONE(エヌ ワン)が、もう一度 日本にお届けします。



開発責任者

浅木 泰昭(あさき やすあき)

(株)本田技術研究所 主任研究員

1981年、(株)本田技術研究所入社。エンジンテストグループに配属され、翌年、F1第二期参戦へ向けた立ち上げから携わる。エンジンテストPL、インスパイアLPL代行、ニューモデル企画等を経て、2011年、Nシリーズ共通プラットフォームのLPLを担当。N BOX、N BOX + に続き、N-ONEのLPLを務める。趣味は釣り、ゴルフ、温泉めぐり。愛車はアコード、N BOX + 。